



住民自らの行動に結びつく  
水害・土砂災害ハザード・リスク  
情報共有プロジェクト

# 近畿地方における取組の方向性(案)

## 新たに推進する取組

令和2年2月26日

国土交通省 近畿地方整備局  
河川部

⑬ テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携した「マイ・タイムライン」の普及促進

B: 災害情報我がことプロジェクト  
 ~災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現~

「逃げ遅れゼロ」の実現のため、テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携して、一人一人の災害時の防災行動計画（「マイ・タイムライン」）の検討の手引きや策定ツールを全国で共有するとともに専門家を紹介する等により、「マイ・タイムライン」の普及拡大を図る。

**○マイ・タイムラインとは？**  
 災害状況の変化に応じて自分自身の家族構成や生活環境に応じた“自分の逃げ方”のような防災行動を住民一人一人があらかじめ検討し、とりまとめたもの。



- 避難行動に必要な情報の例**
- 地区の特性
  - 過去の水害
  - 地形の特徴
  - 最近の雨の降り方と傾向
  - 浸水想定
  - 避難行動を判断する時に有効な情報
    - ・台風・降雨・河川・避難情報等
  - 情報を知る手段
    - ・テレビ、ラジオ、Webサイト、スマートフォン

知る  
 気づく  
 考える

**「マイ・タイムライン」**  
 ※「マイ・タイムライン検討の手引き」より  
 （鬼怒川・小貝川下流流域大規模氾濫に関する減災対策協議会）

**検討の進め方**

**ステップ1 自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る**

- ・過去の洪水を知る
- ・地形の特徴を知る
- ・水害リスクを知る

自分達の住んでいる地区が浸水するかわかりましょう。

**ステップ2 洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る**

- ・洪水時に得られる情報とその読み解き方を知る
- ・タイムラインの考え方を知る
- ・洪水時の自らの行動を想定

いつ逃げはじめたらいいのかなあ？

**ステップ3 マイ・タイムラインの作成**

- ・一人ひとりの避難行動計画を作成

これで、逃げるタイミングがわかったわ！

時間 ↓ 国 市町村

住民一人ひとりが自分自身の行動を記入

**テレビ、ラジオ、ネットメディアと連携**

- ・検討の手引き
- ・作成支援ツール等を共有

○マイ・タイムラインの作成方法



**取組・支援**

- ・水災害について豊富な知見を有する専門家
- ・マイ・タイムラインの進め方をサポートする人材（マイ・タイムラインリーダー等）

**今後の予定** ○地域に沿った災害情報等に関する説明会などを通じて、報道関係者等と連携し、地域住民に対しマイタイムラインの進め方などの説明・広報を推進し、マイ・タイムラインの普及促進に取り組む。（R2年度～）

③⑩ 地方におけるメディア連携協議会の設置

E: 災害情報メディア連携プロジェクト  
 ~災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進~

本プロジェクトのような全国的な連携とは別に、地方におけるメディア連携協議会を、例えば、地域に既に設置されている大規模氾濫減災協議会の下部組織に設置し、地方毎のメディア関係者(地方紙、地域CATV、地域ラジオ、NHK地方局、地域民放等)の参加の下、関係者の連携策と情報共有方策の具体化を検討する。また、メディアも連携した防災訓練を実施し、地域の取組を強化する。

令和2年度 大和川水系総合水防演習・奈良県防災総合訓練の概要

- 日時: 令和2年 5月17日(日) 9:00 ~ 12:15(予定)
- 場所: 大和川・富雄川合流地点(新御幸橋上流付近)  
 (奈良県生駒郡斑鳩町、安堵町、北葛城郡河合町)



情報発信訓練のイメージ



水防訓練の様子



救助訓練の様子



2019 淀川水防・大阪府地域防災総合演習の開催状況

今後の予定 ○事務所職員とローカルメディアが連携し、河川監視カメラ映像を活用し、洪水時の状況を想定した情報発信訓練を含めた水防演習を実施。(R2.5.17)

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト  
 ~地域コミュニティの防災力強化と情報弱者へのアプローチ~

# ③「避難インフルエンサー」となる人づくり

「避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)」※を育成・支援するとともに、災害時には、信頼性が高く切迫度が伝わる防災情報を届け、避難インフルエンサーからの周囲への積極的な情報拡散を促すことで、地域コミュニティの中での高齢者を含む情報弱者に対する支援の強化を図る。

※「避難インフルエンサー(災害時避難行動リーダー)」とは、災害情報を正しく理解し、発信できる人・信頼される人で、災害時にはリーダーとなって高齢者を含む周囲の人たちに情報を拡散させることで、避難に対して大きな影響を与える人。

## 平常時

- 「避難インフルエンサー」育成・支援策
- ・災害や避難に関する情報への理解を促すため、「避難インフルエンサー」に対して勉強会を実施
  - ・「避難インフルエンサー」と自治体が連携し、災害時における地域の円滑な避難に向けた意見交換会や避難訓練等を実施

(例)  
 小学校での水防災学習等の推進  
 ⇒水防災教育で学習した児童が家庭内や将来の「避難インフルエンサー」候補となることを期待



○地域の大人や児童、関係機関による避難訓練



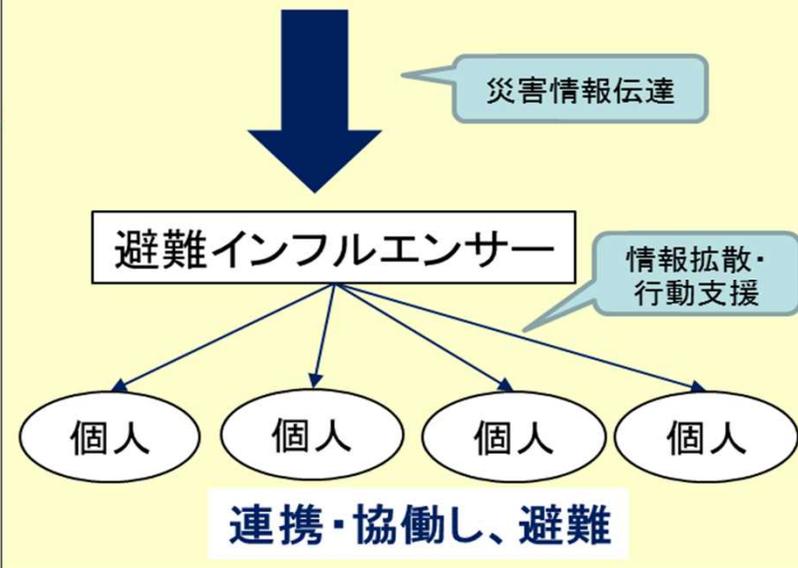
○ダム下流住民及び関係機関への説明



## 災害時

- ・「避難インフルエンサー」からの情報、地域の連携・協働による円滑な避難

国、都道府県、市町村、メディア



**今後の予定** ○各地域の避難インフルエンサーに対して、報道関係者や市町村等との連携により先駆的な活動状況の共有や勉強会などを実施し、育成・支援に取り組む。(R2年度～)